

琴ヶ浜の白砂青松を活用したキャンプ場と広場の設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1240024 梅木 捺菜

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景

対象敷地は、高知県安芸郡芸西村の琴ヶ浜周辺である。琴ヶ浜は東西約4kmにわたって続く直線的な砂浜であり、香南市から安芸市まで約15kmを結ぶ高知安芸自転車道の間地点に位置している。砂浜の北側には、周辺敷地を合わせて面積約50haの松林があり、日本の白砂青松100選と日本100名月に選定されている。

1) 既存施設の機能が不十分

現在、海を眺める視点場はほとんどが駐車場となっている。小規模の広場と展望台のある建物があるが、イベント時以外はあまり使われず、日常的に人々が活用できる施設がない状態である(図1,2,3)。



図1.現在の琴ヶ浜の様子



図2.小規模広場



図3.展望台付き建物

2) 松林の未活用

砂浜の北側の松林の中には遊歩道がある。しかし、遊歩道への入り口が1つしかなく、遊歩道の存在に人々が気づきにくい。単調な風景で薄暗い箇所があることから、ほとんど歩行者は見られない。また、松林は潮害防備保安林であるが、管理されている松林に比べて、やや過密状態にある(図4)。



図4.現在の琴ヶ浜の松林の様子

2. 目的

琴ヶ浜の白砂青松の風景の魅力を引き出し、観光客の来訪を増やすとともに、地元住民が日常的に訪れ憩いの場となる空間を創出する。それにより、人の流れを生み出し、地域活性化を図ることを目的とする。

3. 対象敷地

対象敷地は、高知県安芸郡芸西村琴ヶ浜周辺の、赤く色付けした範囲である(図5)。松林は山なりの斜面になっており、砂浜もゆるやかに斜面となっている(図6)。

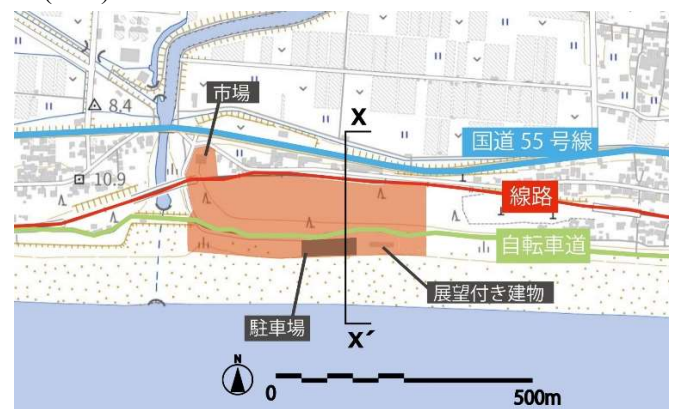


図5.対象敷地図

(国土地理院地図に筆者加筆)

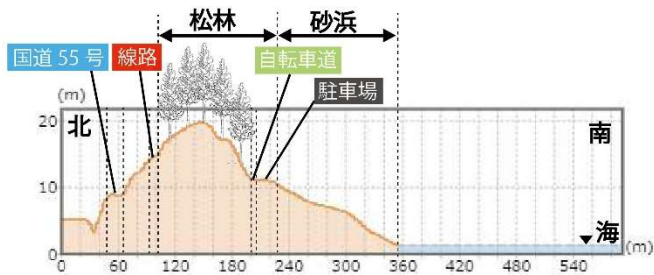


図 6.X-X' 断面図

4. 設計方針

1) 白砂青松を眺める視点場の創出

現在は海のみを眺める視点場が多く、松の魅力を感じにくい。そのため、松林の中にキャンプ場、カフェ・コミュニティセンター・足湯を新設することで、松林と海を同時に眺めることができる視点場を生み出す。それにより、松林の遊歩道の利用を促進する。松林はやや過密状態にあるため、適切に間引く計画とする。

2) 潮害防備保安林の条件を考慮する

潮害防備保安林の条件として、立木の伐採が、指定施業要件に定める伐採の限度を超えないことが求められる。そのため、間引く松以外で施設新設の場所確保のために伐採が必要な松は、広場に移植するなどして可能な限り適正な本数を残すこととする。

更に、土地の形質の変化を最小限に抑える必要がある。よって、松林に設計する施設等は、既存の斜面に沿った高床式のデザインとすることで、既存の地形の変化を抑える。また新設する施設は津波浸水想定区域外に設け、浸水のリスクを回避する。

3) 設ける機能につながりをもたせる

国道沿いの市場と、松林内のキャンプ場、カフェ・コミュニティセンター・足湯、海岸広場につながりをもたせるため、新たな道路や歩道を設ける。全体が視覚的に結びつくことで、ある場所から別の場所への移動を促し、人の流れを生み出す。

5. 設計

1) 松林内のキャンプ場

白砂青松の風景を一体的に眺められるキャンプ場を設計する。キャンプサイトは高床式のウッドデッキサイトとし、海が見えるように、松林の中の、南の斜面に配置した(図 7)。



図 7. 断面 配置計画

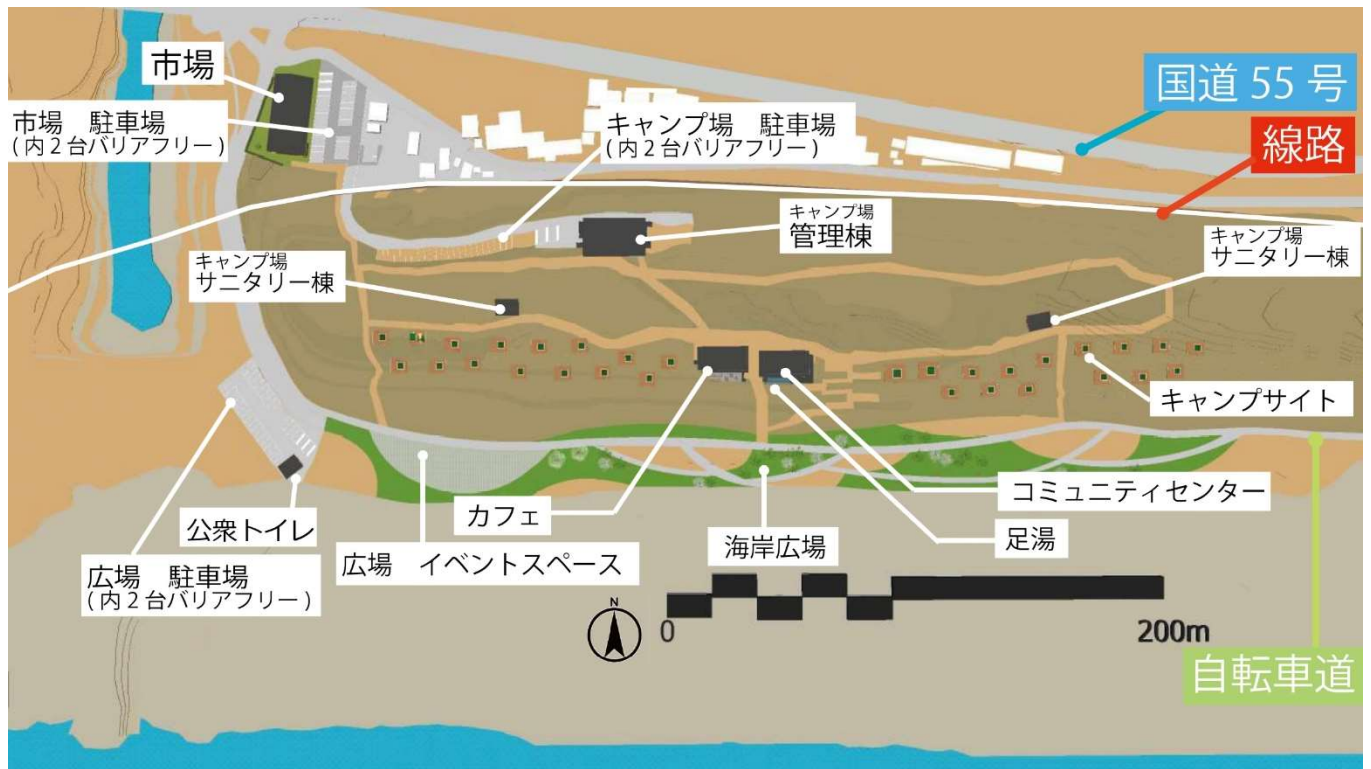


図 8.全体配置図(松がない状態)

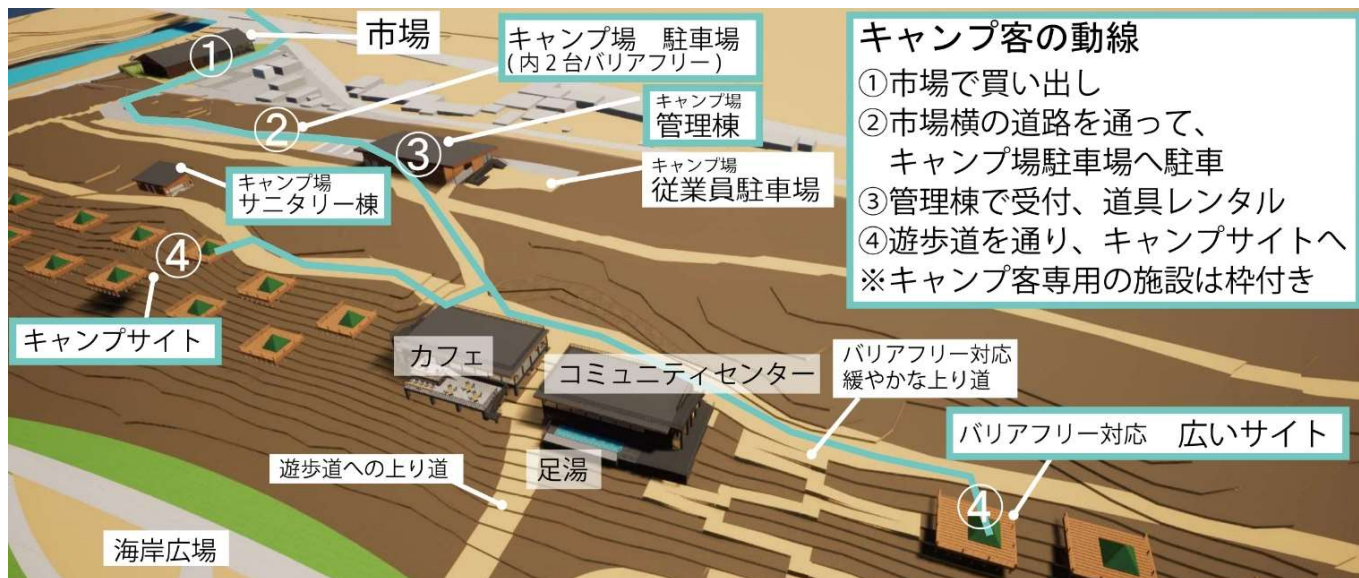


図 9.キャンプ客の動線(松がない状態)

遊歩道の利用と管理を行うため、遊歩道に沿って機能を分散させた。キャンプ客は図 9 の動線でキャンプサイトに向かう。6×7mのサイト 28 個と、車いすの方でも来られる範囲にバリアフリー対応の 10×10mのサイト 2 個を設置した。サイト間に松が生えているため、プライバシー確保や日よけが可能で、サイトからは松林の隙間から海が見える(図 10)。



図 10.キャンプサイト

管理棟と、サニタリー棟 2 つを配置する。管理棟とサニタリー棟にはトイレ・シャワー・食器等の洗い場・ゴミ捨て場を設ける。山の斜面に沿った片流れ屋根である(図 11)。



図 11.管理棟の様子

2) 松林内のカフェ・コミュニティセンター・足湯

交流や憩いの場として、カフェ・コミュニティセンター・足湯を設ける(図 12)。足湯はサイクリング客の休憩所として有効である。これらは観光客と地元住民が共に利用でき、人々が交わる場となる。

どの場所からも、松林と海が同時に眺められる(図 13)。カフェ・コミュニティセンターはガラス張りで、互いに視線が交わり、それぞれの施設の利用を促す。屋上は展望台とし、屋上への階段には車いす用の階段昇降機を設置した。



図 12.カフェ・コミュニティセンター・足湯
(松を一部省いた状態)



図 13.カフェ店内からの眺め

3) 海岸広場

現在海岸付近には、手加えられていない自然の砂浜と海に対して、図1～3のような人工的な風景が並んでいる。これらの人工物を撤去し、歩道・植栽・芝生の整備、松の移植・植樹を行う。一部を芝目地で舗装し、イベント時にキッチンカー等を置くスペースとする。広場からは遮られず、白い砂浜と海が見える(図14)。



図14.海岸広場



図15.海岸広場の自転車道と歩道の様子

4) 市場の建替え

現在、駐車場の奥に市場があり、国道からよく見える立地条件を活用できていない(図16)。よって、より交差点から見える位置に移動し、市場の出入口を増やし、駐車場は市場に隠れた位置に配置する。また、市場を開放的なガラス張りにし、店内の様子が見えるようにする。オープンスペースを活用し、賑わいを創出する(図17)。新たに休憩スペースや、キャンプ用品売り場(図18)を追加する。



図16.現在の市場



図17.国道から見た市場



図18.市場の内観

5) 全体のつながりを生み出す

市場とキャンプ場の施設をつなげる新たな道路を整備した。また、広場と松林内の遊歩道をつなぐ上り道を3か所設けた。敷地中央には車いすの方でも登れる1/12勾配の坂道を整備したため、より多くの人が遊歩道を利用することが可能となった。

6. まとめ

本設計により、キャンプ客・サイクリング客・地元住民等の様々な人々が集まり、琴ヶ浜が人の流れを生み出す、地域活性化の拠点となる。



図19.鳥瞰パース(松がある状態)

7. 参考文献

- ・林野庁,「保安林制度」
https://www.rinya.maff.go.jp/j/tisan/tisan/con_2.html#
- ・国土交通省九州地方整備局,「白砂青松の保全・創出」
<http://www.qsr.mlit.go.jp/uminaka/maintenance/hakusya.html>